2011年3月号 Vol. 23 （2011年3月1日発行）

せんしゅん

千春会 SENSHUNKAI
ISO9001：2008認証取得
日本医療機能評価（Ver.5）認定病院
http://www.senshunkai.or.jp/ 千春会 検索
発行責任者： 菊地 孝三

桜を楽しむデイサービス風車のみなさん
「雇用・能力開発機構京都センター（ポリテクセンター）」広場にて：長岡京市友岡

理　念（3つの使命）

1 患者・利用者の自立を支援し、**良質な医療・看護・介護**を提供する。
2 仕事に誇りと責任を持ち、**社会人としての向上**を目指す。
3 事業の充実により、**住民の健康増進と地域社会の発展**に寄与する。

医療法人社団 千春会

歳時記 1 せんしゅん

長岡京市教育委員会より　・・・地元のみなさんとともに

「中学生職場体験」受け入れの感謝状　授与

例年、長岡京市立中学校の「中学生職場体験」を受け入れてきた千春会に、長岡京市教育委員会から、受け入れに対する感謝状が授与されました。

長岡第三中学校 原 校長先生より、当法人の菊地理事長に感謝状が手渡されました。千春会では、介護施設だけでなく、病院においても「職場体験」を受け入れています。

今後もできる限りご協力をさせていただき、中学生の皆さんが、楽しく有意義に職場体験することで、未来を担う子ども達の育成に貢献できればと願っております。

左から田中看護部長、理事長、藤原院長、原校長

歳時記 2 せんしゅん

京都新聞に掲載

1月5日

デイサービス滝ノ町

『在宅死を選ぶためには（1月5日・朝刊）』と題した記事にデイサービス滝ノ町が掲載されました。京都新聞文化報道部 太田記者から「デイサービス滝ノ町を利用されていた故・巣内静彦さんの関連で取材したい」との依頼を受けての事です。

「巣内さんを取材する中、ケアマネさんなどに伺うと、いつも千春会のデイサービスの事が話題に出ます。巣内さんがデイサービスに行くのを本当に楽しみにしておられたと伺って」と、当時の様子を取材。巣内さんは、多くの利用者仲間から「兄貴」と慕われ、介護スタッフやヘルパーさん、ケアマネさん等と関わりつつ、最後まで自宅で過ごされ、独居ながらも幸せな最期を迎えられたそうです。

千春会はこれからも様々に連携する事で、皆様の心豊かな生活を支援してまいります。

（左）太田記者　（右）DS 滝ノ町 瀧本主任

禁煙外来ニュース

「意志の力」より「医師の力」!!

祝 ご卒煙！

驚きの効果　さよならタバコ

日高伸幸さん　（禁煙外来通院期間 10月1日～12月24日）

多くの卒煙者の中で、取材をご快諾下さった日高さん。新聞社勤務で、1日2箱以上を25年間吸っていた強者です。きっかけはタバコの値上げ。

「昨年、新型インフルエンザの予防接種で、千春会病院に来た際、掲示ポスターで禁煙外来の事は知っていましたが、値上げのニュースで決心しました。」とのこと。

「ニコチンパッチか薬にするか選択する際、薬なら、1週間はタバコを吸いながらでも大丈夫と聞き、最初からあまり無理をしない方法を選択しました。薬を飲んで1時間後にタバコを吸うと、まずくて（笑）。ダメとなると、辛いですが、最初の1週間は吸って良いと言われたのが逆に良かったですね。すっかりタバコが止められ、会社の人にもすすめています。」とのことです。

榎本ナースからはタバコの有害さを説明され、寺崎先生の診察では「『薬飲みつつ、吸いつつ』と気楽に言われ、相乗効果で良かった（笑）」と、実に楽しそうに禁煙体験を語って下さいました。

「禁煙は辛い」という方は、やはり医師との二人三脚がおススメです。

卒煙証書を手にした、（中央）日高さん、（右）寺崎由香先生、（左）榎本ナース

禁煙外来 診察日
金曜日 午前（予約制）

編集後記

冬の厳しい寒さを乗り切れるのは、
必ずそこに「春」が来るから…。
何度季節が巡り来ても、千春会はいつも変わらず、
地域の皆様をしっかり支えてまいります。
新規開設施設の名の如く、長岡京に吹く、優しい「春風」のように…。（弘）

患者さまの権利と義務

当院では、次に掲げる患者さまの権利を尊重します。

1 患者さまは誰でも、良質な医療と良質な看護を公平に受ける権利があります。
2 患者さまは、医療の内容について納得できるまで十分な説明を受ける権利があります（インフォームドコンセント）。
3 患者さまは、他の医療機関の医療者に意見を求める権利があります（セカンドオピニオン）。
4 患者さまは、医師から説明を受けた治療方法など自らの意思で自由に選択し決定する権利があります。
5 患者さまは、ご自分の診療録など診療情報の開示を求める権利があります。
6 患者さまは、個人の情報やプライバシーの保護を受ける権利があります。

また良質な医療と看護を公平に受けていただくために、患者さまに次の義務をお願いしております。

1 患者さまご自身の健康に関する情報を、できるだけ正確にご提供ください。
2 十分理解できるまで質問していただき、納得した上で治療をお受けください。
3 患者さまおよびご家族の方々は、他の患者さまの治療や職員による医療提供の支障にならないように協力する義務があります。

日本医療機能評価機構認定病院
千 春 会 病 院
〒617-0826 京都府長岡京市開田2丁目14-26
TEL.（075)954-2175　FAX.（075)955-4615

未来を見据えて 飛翔する千春会

法人理事
診療技術部 部長
四井　猛士

若い木々が芽吹く早春の候となりました。ことのほか厳しかった今年の冬を乗り越えて、これからの季節は心も身体も元気いっぱいになります。

私が、初めて千春会に関わりましたのは、昭和49年。いささか古い話ですが、放射線科医である河上千春先生が長岡京市に開設された病院（現･千春会病院）に、当時32歳の私は放射線科技師長として就任し、5年間在籍しました。

思えば､昭和53年に私が退職した後､病院(当時の河上病院）は大変な時期もありました。その後、菊地孝三理事長が平成9年に就任され、時を経て私は、宇治徳洲会病院の事務局長を役職定年退職しましたが、平成17年より、再び千春会病院でお世話になる事になりました。今日の千春会病院に至るまでの道のりを思うと、菊地理事長は苦難の連続であったのではないかと拝察いたします。その中にあって、来るべき高齢化社会を見据え、介護保険制度導入前に、いち早くデイケア（通所リハビリ）やホームヘルプ事業部を立ち上げ、新規事業所を順次開設するなど、理事長は、卓越したリーダーシップと実行力で法人を先導してこられました。

私がお世話になった平成17年には、千春会病院は建て替えに取り掛かっており、すでに建物が出来上がりつつありました。また、建物だけでなく、内部の充実に向けて、新しい千春会の構築が始まった頃でもありました。平成19年には藤原仁史医師を院長とし、その後も努力を重ね各医療機関の先生方からのご支援と連携をいただきながら、患者様の信頼を得て外来患者数も着実に増加してまいりました。

今後、確実に「在宅における最期の看取り」が重要となる時期を迎えます。それを視野に、今春「介護老人保健施設　春風（はるかぜ）」を開設することになりました。

この「春風」は、京都府下有数の施設であり、病院と家庭の中間となる施設として、また、在宅復帰支援施設として地域の方々に、いかに最善の医療と介護を提供できるかということに力を注いでいきます。

千春会は、地域の方々の生活基盤の支援に着手する中、医療と介護を融合させ、着実に良質なサービスを皆さまに提供できる組織になってまいりました。

これは単に企業として「業績を上げる」ということではなく、真の意味で医療と介護を必要とされる方々のために、医療人、否(いな)人間として何が出来るかということだと思います。

私のこれまでの経験からみましても、千春会は法人理念のもと、厳正なる組織運営を行っており、素晴らしい法人であると自負しております。私自身、良い職場に籍を置けたと誇りに思っております。

最後に私事で恐縮ですが、平成21年には、京都府で年に3名が対象となる「医療功労賞」を拝受いたしました。これもひとえに、これまで地道に50年間精進したこととあわせて、今日働かせていただいている職場があってこそ、と考えております。

現在私は69歳となりました。浅学非才の身ではありますが、これからも「医療法人社団千春会」が、さらに立派な組織へ発展していけるよう、素晴らしい職員の方々と共に手を携えて、全身全霊で努力してまいります。

今後とも飛翔する「千春会」をよろしくお願い申し上げます。

春風ニュース

介護老人保健施設 **春風**

全室個室トイレ付

本格始動の春 間近！

近づくオープンに向け、介護老人保健施設「春風」の開設準備室も始動しました。ご利用についてのお問い合わせは等は下記の開設準備室までご連絡下さい。（千春会病院でもパンフレットをお渡ししております）

内部の工事も、玄関やエントランス、厨房、居室などが着々と形になってきました。常に安全・確実・迅速にと、一つ一つの作業が真剣に進められています。

また、関わる職員も打ち合わせや段取りなど、不備のないように日々、懸命に取り組んでおります。

光あふれる安らぎの空間と、ご自宅での生活を支援する機能を持つ、リハビリの中核施設「春風」は、いよいよ開設間近です。

●概 要

1階　デイケア（介護型6~8時間）	3階　老人保健施設（北棟22床・南棟28床）
2階　デイケア（予防型3~4時間）	4階　老人保健施設（北棟22床・南棟28床）
2階　短期入所生活介護（20床）	5階　展望スペース、屋上緑化庭園

眺望の良い施設上階部分

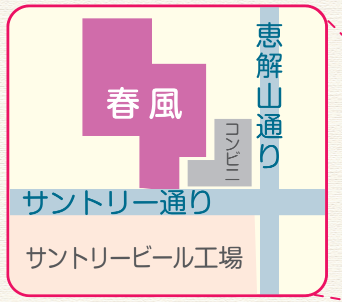
高いクレーン近くまで建ち上がった春風の外観

整えられていく居室付近

利用に関するお問い合わせ

介護複合施設上植野 内
介護老人保健施設 春風 開設準備室
担当：入谷・三輪

☎ 075-931-7000
FAX 075-931-7003
受付時間 平日9時～17時



介護老人保健施設　春風

〒617-0837　京都府長岡京市久貝１丁目6-23

TOPIX

京都府内で２番目

千春会病院「臨床栄養師研修施設」として認定

臨床栄養師研修施設認定証

医療法人社団　千春会　千春会病院　殿

臨床栄養師臨床研修実施細則第２条第２項に基づき、臨床栄養師認定審査会で貴施設について臨床研修施設要件を審査した結果、適格と認めましたので、貴施設を臨床栄養師研修受託施設と認定し、臨床研修の実施を委託いたします。

認定日：　平成22年12月21日

一般社団法人　日本健康・栄養システム学会

理事長　武藤泰敏

臨床栄養師認定審査会（一般社団法人日本健康・栄養システム学会）にて受審の結果、千春会は受託施設としての要件を満たしているとして「臨床栄養師研修受託施設」の認定を受けました。

現在、全国で48カ所が平成22年度研修施設として認定されており、当法人は京都府で２番目の認定となります。

近年、臨床現場では、治療の一環として適切な栄養管理が重要視されています。

さらに、チーム医療の中で、栄養に関する専門性を発揮できる「臨床栄養師」の必要性が高まってきています。

今後は、臨床栄養師資格取得に必要な研修（認定講座100時間・臨床研修900時間）を千春会にて受け入れ、高まる社会ニーズへの一助を担ってまいります。

臨床栄養師とは

人間栄養学に基づいた臨床栄養の知識、技術およびマネジメント能力を習得し、栄養ケア・マネジメントの質の向上に努めることのできる能力を有している学会員である管理栄養士。（臨床栄養師資格認定規則第２条より）

リハビリのお話・1

リハビリテーションとは

リハビリテーション科
佐藤統括主任

リハビリテーションというと「病院で療法士が患者さんを触って訓練をしている。」というイメージがあると思います。

しかし、ただ動かすために訓練を行っている訳ではありません。最初は、必ず患者さまの状態を把握すること（評価）から始めます。例えば「関節がどの程度動くのか（ROM）」「筋力（MMT）がどの位あるのか」などを調べます。

従って、療法士が初回にリハビリテーションを行うときは、評価に充分時間を取るケースが多いのです。

そして、その評価をもとに、「杖で歩行できるようになる」「入浴ができるようになる」などの目標を患者さまと一緒に決定し、達成するためのリハビリテーションを行っていきます。

今月号より、検査科に引き続き、リハビリテーション科のシリーズが始まります。

次号からは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、それぞれの専門的な領域のお話をしていきます。

介護部より

決して独りで悩まないで

「私だけ…」「独りだけ…」と孤独を感じたら
いつでも千春会に相談を…

介護家族と共に語る「家族交流会」開催　１月15日（土）

バンビオ１番館で開催された家族交流会。講演と体験談、茶菓をいただきながらの懇親会では、ケアマネージャー、介護スタッフ、訪問看護師が各テーブルで皆さんと共に語り合い、不安や疑問、辛さを分かち合いました。

来場のご家族さま、利用者さまを介護スタッフ等が笑顔でお迎えし、介護部寺山部長の挨拶で家族交流会が始まりました。

まずは、リハビリ科 佐藤統括主任が「認知症予防」と題して、相談先や気持ちを楽にするための十か条などを交えて講演。続いて訪問看護ステーションの玉川ナースが「床ずれ予防」について講演し、具体的な予防方法では、当法人の訪問看護師が協力し合い、モデルとなって実演しました。分かりやすい実演では、皆さんしっかりと見入っておられました。

実演中の当院訪問看護師

ご家族さま体験談

ご主人が認知症のためデイサービス風車を利用されておられた岩崎さまの奥さま。

認知症と判明してから、様々な医療機関、施設を利用してこられましたが、千春会の認知症対応型デイサービスに、ようやくたどり着いたとの事。「風車さんにあえて良かった」という言葉が、そのご苦労を物語っていました。

「認知症である主人の問題だと思っていたが、実は、自分の問題だったことに気がつきました。」と岩崎さん。

「ケアマネさん、千春会さんと相談して、自分がどうしたいのかを考え、自分のしたい介護をしていくことが大切」と話され、「認知症でも、その人の人格は決して失われていません。」とも。

「自分が変わるよう、「良い顔」でいる事が大切。」と、「良い顔」になるための運動も披露して下さいました。

デイサービス滝ノ町を利用されていたご主人の事を話された小林さま。

「他の病院にかかった時、坂をのぼりながら、これが自分の坂（苦難）と思い、「ここを登りきらなければならない」「やり通そう」とがんばった。口で言うのは簡単だけれど、死ぬ気で、笑って介護をしようとした。」と当時の心境を語られました。

「自分が変わらなければ」と思い、優しい顔、声で接すると、ご主人もやさしい顔になり、一つでいいから喜ばせようと工夫し、絵手紙も書き始められたとの事。衣服の着脱が簡単にできるようにと、工夫して作られたお手製のパジャマやベストなどの介護用品も披露して下さいました。

最後に「主人が亡くなった感覚はないが、自分が亡くなって、再び会えたら主人と結婚したい。」と、今なおお深い愛情を語られました。

家族交流会は、介護者の方々の苦悩を見逃してはならないのだということを、改めて私たち職員が認識する場でもあります。参加の方々からも「このような機会をまた作って欲しい」「自分だけではなかったと安心した」との声が多数寄せられました。

千春会は、これからも、利用者さま、患者さまはもちろん、介護や看病をされるご家族さまに寄り添い、支えられる法人として、今後も「家族交流会」を開催していきたいと考えています。